



みんなの がっこうの どうぶつ

2014年4月上旬
第3号

発行責任者：公益社団法人 栃木県獣医師会 南支部 学校飼育動物委員 すずき しげゆき
☎0285(41)0323 fax0285(41)0322
電子メール suzuki@brace-ah.jp



この号の内容

- 1 動物飼育は 春が始まり
- 2 根拠に基づく動物飼育 社会状況1
- 3 動物飼育を見直す ①飼育環境

「リア充」という表現があることは、仮想空間が存在していることを示しているかもしれない。

動物を飼育しない家庭が増えている。

現代を生きる子供たちは、情報の波の影響を受けやすい環境にあるかもしれない。



1. 動物飼育は 春が始まり

南からは桜前線がやって来て、田んぼでは田植えの準備が始まり、野外の昆虫たちも鳥たちも、春を感じて盛んに動き始めました。

動物たちの一年が、春から始まるように、学校での動物飼育も春から始まります。田んぼに水が入るとカエルが卵を産みます。卵からカエルになるまでを観察するには、今から計画しておく必要がありますね。

恐々だった子供たちも、学校の動物に慣れたことでしょう。さて、ここからがスタートです。

命を学ぶためには時間がかかりますし、長い経過を追う必要があります。今から準備をスタートしてみても如何でしょう。

参考：「学校飼育動物を考えるページ」[小学校での動物介在教育の年間計画](#)

2. 根拠に基づく動物飼育 社会状況 1

私たちを取り巻く環境も、デジタル化が進み、インターネットによる情報の収集が普通に行えるようになりました。小学校の教育でも、パソコンやインターネットを活用した学習が積極的にされています。子供たちの遊びも、ファミコンの出現以来、ポータブルゲーム機、最近では携帯電話での無料オンラインゲームにまで発展しました。また、コミュニケーションの仕方手紙から電話に、電話から電子メールに、電子メールからソーシャルネットワーク(ツイッターやライン)へと変化しようとしています。

最近のネット系の若い人たちは、「リア充(りあじゅう)」という言葉を使い、友達がいることや恋人がいること、現実社会(リアル)での時間を有意義に楽しく満喫(充実)できる事をそう言い表します。そのような表現があることは、バーチャルな社会(仮想空間)が存在し、そこで自分の希望や欲望を満したり、吐き出していることを示しているのかもしれませんが。ある学校飼育動物関係者のお話で、「子供たちの25%は、死んでもすぐに生き返ると思っている」と、お伺いしたことがあります。

若い人たちが関係した最近の事件では、「孤独」、「希薄」、「逃避」、「誇示」、「短絡」などの言葉を感じるケースが多いように感じます。動機のはっきりしない、無差別的な凶悪事件の背後には、実体を伴わない社会が見え隠れしているように感じます。

家庭内に於いても、家族間の会話時間の減少、個食などの不安を感じる報告もされています。また、集合住宅の条件やアレルギーの対策、無菌的生活を推奨する社会的傾向から、動物を飼育しない家庭が増えている報告もされています。(引用：中川美穂子 [2005年度 4年生の家庭での動物飼育状況](#))

現代を生きる子供たちは、実体験を伴わなかったり、温もりを感じにくかったり、一方的な仮想的な媒体からの情報の波の影響を受けやすい環境にあるかもしれません。

そんな中で、学校での動物飼育は、どんな役割を持っているのでしょうか。 つづく

3. 動物飼育を見直す ①飼育環境

何も動物がない、廃墟のような飼育舎が小学校にあることは、余りにも不自然です。

飼育環境を見直す目的は、動物飼育の目的を果たしているかを再点検することにあります。

一番大切な目的は、「かわいい」とか、「愛着」を感じてもらうことです。



「かわいい」と感じてもらうことから、動物飼育は始まります。

**疑問はないですか？
困りごとないですか？**

日々の学校生活の中で、動物に関する疑問や困ったことはありませんか？

あらゆる動物に関する疑問、質問、困ったことに必ずお答えします。

発行責任者までご連絡ください。

suzuki@brace-ah.jp

①-1 動物を飼育していない小学校

ウサギや鳥などを飼育している場合の動物飼育の醍醐味は、「かわいい」と感じ、「抱くと気持ちいい」とか、「癒される」と感じるのですが、ウサギや鳥を飼育し始めるのには、乗り越えるべき問題が多いと察します。

ほとんどの小学校では、以前使用していた飼育舎があると思います。その飼育舎を利用した、新しい動物飼育を試みるのは如何でしょうか。自然の環境に則した生育をし、単年でサイクルする種類の生き物から数種類を選び、それらの生育環境を知ることと命のサイクルを知る為の動物飼育を始めてみてはどうでしょうか。

例えば、アゲハチョウやカマキリ、バッタ、ヤゴをそれらの昆虫が生活しているような環境に、飼育舎を内装し直すのもよいでしょう。簡易的なビオトープを飼育舎に作ってもよいでしょう。

何も動物がない、廃墟のような飼育舎が小学校にあることは、余りにも不自然です。子供たちの思い出の中に、「学校には飼育舎があり、そこには動物がいた」思い出があったらよいと思いませんか？

参考：[第9回全国学校飼育動物研究大会報告](#) 口頭発表①、パネル発表①、②、③

①-2 現在、動物を飼育している小学校

動物を飼育している小学校では、現在の飼育環境を見直してみても如何でしょうか？例えば、動物の種類、動物の数、飼育舎の構造、老朽化度合、衛生環境、子供との距離、お世話している子供の人数などです。

飼育環境を見直す目的は、動物飼育の目的を果たしているかを再点検することにあります。動物飼育の目的は、いろいろな目的を有していますが、一番大切な目的は「かわいい」と感じてもらうことや「愛着」を感じてもらうことです。

個体を識別し愛着を持ってもらうには、多すぎでは識別が難しくなります。また、数が多くて“生き死に”が多い事は、「死」に鈍感になる事や“命”を粗末に扱う事を日常的に、無意識の下に経験に刷り込むことになり危険です。

衛生環境は、子供たちの健康や動物の健康を守る上でも大切ですが、保護者や周辺住民、学校関係者に対するアピールの意味も含まれます。「手が行き届いている」と感じてもらえるように、可能な限り衛生的であることが望ましいでしょう。色々な飼育舎の事例を紹介しているホームページ([ノートルダム清心学園 清心女子高等学校 学校飼育動物レポート](#))をご参考ください。見つかった問題点を箇条書きにし、優先度の高いものから実行されると良いでしょう。



公益社団法人 栃木県獣医師会
Tochigi Veterinary Medical Association

公益社団法人 栃木県獣医師会
学校飼育動物委員会

〒320-0032
栃木県宇都宮市昭和1-1-23

☎0286(22)7793 Fax0286(21)9660

http://www.tochigi-vet.or.jp/activity/chairman_02.html